

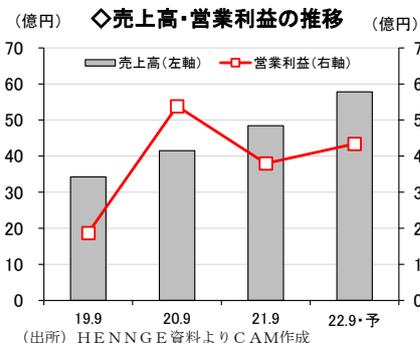
企業ニュース HENNGE

(東証マザーズ : 4475) <https://hennge.com/jp/>

作成者: 村上大志

クラウド型ID管理サービス「HENNGE One」を提供

1996年設立。自社開発による企業向けクラウド型サービス「HENNGE One」を提供する。複数のクラウド型サービスを利用する際にはそれぞれのIDやパスワードを管理する必要があるが、同サービスでは一度の認証で複数のクラウド型サービスを利用できる「シングルサインオン」を実現するID統合基盤（IDaaS[※]）を提供する。21.9期末時点での契約企業数は1,952社で、日本の上場企業の約14.9%が当社のサービスを利用している。多様な業種・業態にサービスを提供しており、強固な顧客基盤を構築している。21.9期の事業別売上高構成比はHENNGE One事業90%、プロフェッショナル・サービス及びその他事業10%。※IDaaS：クラウド型のID管理サービス



積極的な販促活動で減益だが、収益基盤の拡大が続く

21.9期の連結業績は売上高が48億4,500万円、前期比17%増。営業利益が3億8,000万円、同29%減。売上総利益率は同0.7ポイント増の83.0%と高水準を維持したが、TVCMやウェブ・交通広告の実施や、新機能追加に関連するイベントの開催により広告宣伝費が増加し営業減益となった。HENNGE One事業の売上高は43億5,500万円、同20%増。「HENNGE One」の契約企業数は同285社増の1,952社、ユーザー数は同19.0万人増の213.8万人と順調に拡大した。

22.9期の会社計画は売上高が57億8,200万円、前期比19%増、営業利益が4億3,400万円、同14%増。認知度向上と顧客基盤の拡大を目的に、今期も引き続き積極的なマーケティング投資を実施予定。人員に関しては、10月から導入を開始した新料金プランの販売促進のため営業職を中心に増強し、50名以上の純増を目指す。重要指標としている契約企業数やARPU（契約ユーザーあたりの年額単価）は順調に上昇しており、直近12カ月の平均月次解約率は0.25%と、低水準を維持している。今期は新料金プランへの移行と高付加価値のセットプランの提供により、ユーザー単価の上昇が期待される。

【株価動向・投資判断】

解約率が低いという製品特性により安定した収益基盤を構築しており、持続的な成長が期待できよう。

<4475 HENNGE 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.9	4,153 (21)	539 (188)	535 (202)	355 (223)	22.6	0.00
21.9	4,845 (17)	380 (▲ 29)	383 (▲ 28)	224 (37)	13.9	0.00
22.9 予	5,782 (19)	434 (14)	434 (13)	273 (22)	16.8	0.00

(注)22年1月1付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施予定。1株利益は当該株式分割考慮前の数値



【主要株価指標】 (売買単位：100株)	
株価 (2021/12/10)	4,015 円
年初来高値 (高値日)	10,610 円 (21/1/25)
同 安値 (安値日)	2,786 円 (21/8/13)
予想 P E R (22.9 予)	238.7 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	113.5 円
P B R	35.39 倍
予想配当利回り	0.00 %
(1株当たり配当金年0.00円)	
R O E (21.9)	12.2 %
発行済み株式数	1,624 万株